第3期大阪市北区地域福祉計画

（計画期間:令和7～11年度）

北区では、「大阪市北区地域福祉計画」を策定し、地域における福祉課題の解消に向けた取組を進めています。制度や分野などの「垣根」を超えて、地域の住民や多様な主体が参画し、人と人、人と資源がつながることにより、住民一人ひとりのくらしと生きがい、地域を共につくっていく「地域共生社会」の実現をめざします。

〈地域福祉とは〉

北区には、年齢、性別、国籍、障がいの有無など、多様な特性や背景を持つ人々が暮らしています。また、職場で働く人々、学校で学ぶ人々、様々な文化・社会活動を行う人々が活動しています。「地域福祉」とは、こうした人々が自分らしく安心して過ごすことができるよう、全ての人が主役となり、支え合い、生活を共に楽しむ地域をつくりあげていくことです。

基本理念

全ての人がつながり、支えあって活きるまち　北区

～一人ひとりがありのまま、自分らしく暮らし、まなび、集う地域づくり～

大切にしたい視点

- 「気にかける・気にかけ合う」地域づくりの推進
- だれもが地域でつながり支え合うまちづくり
- だれもが「地域の参加者」「ふくしの担い手」
- 個性と多様性を尊重し、互いを認め合い共生するまち
- 地域団体、NPO、企業などの強みや特性を活かす交流と連携
- 「ふくしのまなび」から生まれた場をはぐくむ・つなげる

取組の柱

1. 住民一人ひとりが主体となって、共に支え合う地域づくり（地域コミュニティ・防災・防犯）
2. 一人ひとりに寄り添う“きめ細やかな”相談・支援の充実（包括的相談支援・アウトリーチ）
3. 「ふくしのまなび」から「福祉の担い手」「参加し交流する場」づくりへ（地域づくり・参加支援）
4. 多様な担い手が役割を分担し、協働して支援を行う仕組みづくり（多機関連携）

問 福祉課　☎06-6313-9857　FAX06-6313-9905

詳細は北区HP▶

KITAKU

寺本譲区長の動きをお伝えします

区長コラム

「ゆずるの出発進行!!」season2

餅をいくつ食べたでしょうか!?

昨年末は、11月30日の北野地域を皮切りに、各地域の餅つきやクリスマス会など、12か所を回りました。複数重なることもあり、1か所での滞在時間が短くなりましたが、地域の皆様のご健勝とご多幸を祈念してしっかりとお餅をつかせていただきました。

一昨年は5回くらいつくと「区長、もういいですよ」と優しいお声掛けがありましたが、昨年は、「一臼、最後までつき上げましょう!」と…（涙）。皆様、区長の扱いが変わっていませんか!?（笑）。それとも、この1年で皆様との壁がなくなってきた証でしょうか…？そしてやっぱり、つきたてのお餅はおいしいですね。前日や当日早朝から準備をしてくださった地域の皆様に感謝いたします。12月号で運動と節酒を誓いましたが、これは暴食にあたるのかなぁ…。今年は健康に気を付けつつ、各地域を訪問したいと思います。

安全・安心なまち北区をめざして

トラブルの多くなる年末に向け、11月27日に曽根崎警察署、28日には大淀警察署、12月1日には天満警察署の歳末警戒特別部隊発隊式が挙行されました。今回は、曽根崎警察署の特別点検官にご指名いただき、張り詰めた空気の中、装備の特別点検では署員の皆さんの迫力に圧倒され、台上でとても緊張しました（汗）。12月26日には田中曽根崎警察署長と共に、管内の地域歳末夜警詰所の激励に赴きました。急激に冷え込む中、地域の皆さんの温かい心遣いにホッと一息。“安全・安心なまち北区”の実現に貢献してくださる多くの地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

曽根崎新地在勤・バー店主 荒川英二さん（70代）

阪神大震災で被災したペットの里親探しのイベントで「うらん」に出会い猫を飼い始めました。今一緒にいるのは3匹。「克（かつ）」は、カラスに襲われ傷付いていたところを孫が見つけました。左前脚を切断して3本脚ですが、やんちゃです。あとは、バーに迷い込んできた「ピノコ」と、近所で保護された「ラム」。出自は違っても、みんな仲良しです。

大淀南在住・防災サポーター 古川祐子さん（50代）

災害時、ペットは持ち運びができるハード型のキャリーケースに入れないと、避難所に連れていけません。ケース内でおやつをあげたりして安心できる場所と認識させ、中で過ごすことを習慣付けています。フードも味が変わっても食べられるよう定期的に種類を変えて、いざという時ペットのストレス軽減になるように、日頃から準備しておくのも大切だと思っています。

浮田在勤・フクロウカフェ店長 寺尾穂香さん（20代）

動物の専門学校に通っていた時、今の店でアルバイトを始めたのがきっかけで、フクロウのお世話をするようになりました。フクロウは懐かないとされ、ほぼほぼツンとしてるけど、たまに頭や肩に乗って来て、甘えてくれたりするとうれしいですね。とにかく見た目が好きで飼っている方、腕に乗せて散歩がしたい方、一緒におもちゃで遊びたい方など、楽しみ方も様々です。

神山町在住・賃貸経営 金本千壽子さん（80代）

飼っていた犬との悲しい別れを経験し、もう犬は飼わないでおこうかと思っていました。でも息子や娘たち家族が保護犬カフェへ連れていってくれて、パピヨンのレオくんを迎えることにしたんです。レオくんは今や、孫のような存在で大切な家族の一人。レオくん会いたさに週に2回は孫たちも顔を出してくれるようになりました。うちへ来てくれて本当にありがとう。